まちのアルバム

やすまる広場パネル展 開催！

▼6月14日　野洲図書館本館

やすまる広場実行委員会によるパネル展が開催（6月4日～16日）されました。

同委員会は、市民活動団体などの活動発表や市民活動のきっかけづくりを目的に毎年「やすまる広場」を開催されていますが、コロナ禍により今年度もパネル展のみの開催となりました。

活動内容を紹介する70団体のパネルは福祉、文化・芸術、スポーツ、環境などさまざまな分野ごとに展示。訪れた人が興味をもち、市民活動に参加するきっかけとなるような工夫がなされていました。

開催関係者は、「パネル展を通して野洲で活動するたくさんの団体を知ってもらい、若い人の参加も増えてほしい。」と語っておられました。

歴史の小窓
―学芸員のメッセージ―

214

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

山をめぐる争い
― 大篠原共有文書から ―

江戸時代も中ごろの17世紀後半になると、農業技術が発展して新しい田畑が広がるとともに、各地の農村で山林の利用をめぐって争いがさかんに起こるようになります。

山林は木材のほか、木の枝などの燃料、まぐさ（馬や牛のえさ）を採取する重要な資源でした。寛文年間（1661～1673）になると、野洲郡でも山林の利用をめぐって村と村の争いが起きはじめます。

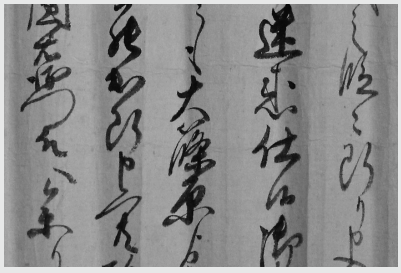
野洲郡大篠原村は、当時、村の境にある城山をめぐって、となりの辻町村や小堤村と裁判で争いました。大篠原自治会が所有する『大篠原共有文書』には、寛文3（1663）年から元禄11（1698）年まで続いたこれらの裁判の記録が残っています。

城山の木を大篠原村の村人たちが勝手に切りとっている、と辻町村が訴えたため、大篠原村と辻町村、小堤村は裁判で村の境を決めます。ところが今度は、小堤村は村の境を守っていない、と大篠原村が訴えます。『大篠原共有文書』には、城山でそれぞれの村人たちがもめていた様子も記録されています。

このように大篠原と辻町、小堤の住民たちが、かつては山をめぐって激しく対立したこともあったのです。

特集陳列「滋賀県野洲市大篠原の歴史と文化」では、この争いに関する古文書の実物を展示しています。

（市史専門調査員　川原吉貴）



『大篠原共有文書』のうち「寛文３（1663）年６月５日付訴状」
（大篠原自治会蔵）
※右から２行目に「迷惑」、３行目に「大篠原」の文字が見える

■特集陳列「滋賀県野洲市大篠原の歴史と文化」
開催中～7月10日(日)
※市民は入館無料
（運転免許証やげんきカードなどをご提示ください。）
※会期中の休館日：月曜日
※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。